

# 浮島校区説明会結果報告書

## はじめに

令和5年4月に新居浜市教育委員会が策定しました「新居浜市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本計画」(以下「基本計画」)の中で、浮島小学校は規模適正化の検討対象基準に該当し、今後、統廃合を進める方針としています。浮島校区へ説明に入る前段として、まず昨年8月28日に校区学校運営協議会において基本計画の内容等についてご説明し、その後参画する PTA や自治会にご協力いただき、説明会を開催しましたので、その結果等について報告します。

< 報告の内容 >	
1 説明会の開催結果	.....P1
2 説明会を通じた主な論点	.....P7
3 今後の進め方	.....P11

## 1 説明会の開催結果

### (1)開催目的

基本計画は、市教育委員会の方針として学校規模の適正化(浮島小学校は統廃合を軸とする)を進めることを決定したもので、今後その取り組みを推進する上で必要な校区内の合意形成を図るため、基本計画の内容、校区の学校の現状や方向性について、校区住民の方に説明し、情報共有する。

### (2)開催状況

はじめに小学校の児童保護者や校区の保育園の保護者等を対象に説明会を開催し、次に浮島自治会、松の木自治会会員対象の説明会をそれぞれ経て、最後は未参加や自治会未加入の校区住民対象の説明会を市政だよりで広報し開催しました。

その結果、下表のとおり計5回、延べ78人の方に参加いただきました。

対象者	日 時	場 所	参加者
学校運営協議会	令和5年8月28日19時～	浮島公民館	14人
保護者等	令和5年12月4日19時～	浮島小体育館	21人
浮島自治会	令和5年12月18日19時30分～	浮島自治会館	24人
松の木自治会	令和5年12月20日19時～	松の木自治会館	7人
校区住民	令和6年1月24日19時～	浮島公民館	12人

(3)説明会次第

- ア 冒頭挨拶(教育長) 3分程度
- イ 内容説明(学校教育課長) 30分程度
- ウ 質疑応答(フリー)

(4)当初配布資料の見直し

説明会において、参加者からいただいたご意見等を参考に別添「資料1」のとおり見直しました。

資料 P3(上) 変更	・0～14歳の人口について、令和5年12月23日に社会保障・人口問題研究所から令和5年推計が公表されたので最新の数値に改めました。
資料 P6(上) ページ追加	・「(参考)一般的な小規模校のメリット」のページを追加し、以下ページを繰り下げました。
資料 P9(上) 内容追加	・浮島校区の減少率と比較できるよう、全市8.6%を追加しました。
資料 P11 (上)変更	・学校運営協議会を通じて校区説明会を開催していることから、学校運営協議会を【】でくくり、区分しました。
資料 P12 (上)変更	・「これから協議していきます。(現状では何も決まっておりません)」の表記は、最終的な決定はされていないという意図ですが、市教育委員会としての方針は決定しており、白紙という誤解が生じる懸念から、「これから協議していきます。※各地区のイメージは参考として示したものです。」に改めました。

(5)説明会で出された質疑

説明終了後に質疑を受け付けたところ、全体で以下46件の質疑があり、回答しました。質疑に対する回答は別添「資料2」のとおりです。参考として、別添「資料3」にパブリックコメントの回答も添付しています。

分類	資料2 No.	説明会で出された質疑(要約) ※順不同
規模適正 化方策 (9件)	9	合意形成は何%の人と合意を図るのか、数値を示す必要があるのでは。
	18	高津小と浮小で800人で、割って400人になるよう校区を見直す考えは。
	20	統廃合は決定か。統廃合にならない可能性はあるのか。
	22	浮小を残す、計画が白紙になる場合はどこで決めるのか。
	24	統廃合する場合でも、なるべく早めに周知し、準備期間を十分に確保してほしいが。
	29	小学1年生に3キロを歩けはというのは酷では。
	36	統合ありきでなく、若宮小を説明するなど、来た人に寄り添った説明をしてほしいが。
	42	卒業しても地域のことを一生懸命考える校区、学校をなくしていいのか。
基本計画 (7件)	6	何年ぐらいで統合されるのか。
	2	国の少子化対策で子どもを増やす取組みと学校の統廃合は乖離しているのでは。
	4	財政の問題や教員の減少の要因はあるか。子どもの学ぶ権利についてどう考えるか。

	5	数校レベルの統廃合という規模でなく、もう少し先を見据えて計画を見直さないか。
	7	学校の在り方検討委員会の構成メンバーは。
	37	若宮小はこうした説明会をして、次に入学する子が減った事例は。
	45	2月に新聞に廃校と書かれ、子どもが来なくなると心配したが、なぜこんな書き方を。
	46	新聞に廃校になるかもと書かれた、浮小児童の気持ちは考えたのか。
統廃合後 (7件)	19	中学校では東中と川東中に分かれることになるが、そうしたことの配慮はあるか。
	23	統廃合する場合、高津小や垣生小を選択できるようになるか。
	25	浮小が無くなってもクラスの子と離れ離れなど子が辛い思いをしないように検討を。
	26	統合する場合、特別支援を含めた転校するリスクを軽減する対策は。
	39	もし廃校になっても「浮島」の名称は残して。
	40	学校が統合されたら公民館などもなくなるのか。
	41	校区がなくなったら補導員の仕事もなくなるのか。
小規模校 存続 (6件)	1	浮小は以前から少人数だったが、ちゃんと成長しており、それでも統廃合が適正か。
	3	市として一つでも学校を多く残そうとする考えは。
	10	資料は小規模校のデメリットばかり、メリットも合わさなければ公平な判断できない。
	21	小学校を残す方向でなぜ話をしないのか。
	27	小規模校として残し、支援学級を充実させる考えは。
	28	小規模校のメリットとして、ICT など特色を加えて残しては。
校区外 通学 (5件)	30	義務教育は決まった学校に行く義務では。以前の中学校の制度は間違いだったか。
	31	在学人数と同じぐらいの人数が、他の学校に通うのを特例と言っていいのか。
	32	校区外に通う80人が浮小に行っていたら状況は変わっていたのでは。
	33	他の校区の学校に特例としていけることの審査を厳しくしては。
	34	校区外通学を安易に認めるのは控えていただきたいが。
児童生徒 数見込 (4件)	13	校区の児童数は令和17、22、27と増える見込みで、それを踏まえて考えては。
	15	児童数はどのように減っていくのか。
	16	浮島校区だけでなく市全体の減少傾向は。
	17	新居浜の児童生徒数の減少率は、県内で見るとどのぐらいのレベルか。
コミュニ ティ (3件)	38	若宮小と同じ進め方か、地域と話し納得して廃校になったか。
	43	浮島校区というコミュニティをどうしていくかを話し合う場も設けられるのか。
	44	コミュニティにとっても若い人が住まなければ人も増えないことも加味して考えて。
人口対策 (3件)	11	川東の人口が増えないのは、上部より道路等のインフラ整備が遅れているからでは。
	12	大規模校は宅地が整備され人口が増えているので、市全体を万遍に開発してほしい。
	14	調整区域がはずれ家やアパートも新築が進み、資料同様6、7年後に増えるのでは。
その他 (2件)	8	多喜浜小学校は統廃合しないのか。
	35	若宮小学校の参考資料はもらえるのか。

(6)アンケート調査

説明会では参加者にアンケートへの回答をお願いし、お帰りの際に回収しました。また、回答は統計上十分な標本数ではなく、複数回答された方もいます。また属性にも偏りがあります。

ア 回答者総数 66人 (回収率84.6%)

(内訳) 学校運営協議会 7人、保護者等 20人、浮島自治会 24人、松の木自治会 6人、校区住民 9人

<属性> 性別/男性 40人 女性 24人 無回答2人

年代/20代 1人 30代 18人 40代 19人 50代 12人 60代以上 16人

同居家族/未就学児がいる 4人 小学生がいる 11人 中学生がいる 3人

未就学児・小学生がいる 12人 小学生・中学生がいる 13人

未就学児・小学生・中学生がいる 1人 該当なし 21人 無回答 1人

イ 集計結果の概要 ※別添「資料4」のアンケート集計結果と合わせてご確認ください。

◆質問項目2では、基本計画の認知状況、学校規模適正化の取り組み、浮島校区で取り組むことについて質問しました。 <資料 P31>

(1) 基本計画については、回答者の半数以上が「内容を見た」としており、「策定したことは知っている人」と合わせると約90%という結果になりました。

(2)次に、学校規模の適正化という考えについては、「理解できる」・「概ね理解できる」とする人は約62%、「理解できない」とする人が約20%、残る約18%が「どちらともいえない」という結果になりました。

(3)次に一方、浮島校区の学校規模適正については、「必要」・「どちらかという必要」とする人が約41%で、「必要ない」・「どちらかという必要ない」とする人が約33%、「どちらともいえない」とする人が約26%という結果になりました。

<資料 P32

◆質問項目3では、浮島校区や浮島小学校を取り巻く状況について質問しました。 ・P33>

(1)ここ10年、校区の子どもの数はほぼ右肩下がり減少していますが、約68%の人が減ってきたと感じる一方、「そう思わない」人が約17%、「わからない」とする人が約14%という結果になりました。

(2)次に、今後の子どもの数については、少子化傾向が続きさらに減少していくと推計されていますが、約58%の人がだんだん減っていくと思う一方で、「そう思わない」・「わからない」とする人が約41%という結果になりました。

(3)次に、子どもの学ぶ環境として、複式学級、小規模校及び標準規模校に対する考え方について、質問を分けて確認しました。まず、複数の学年でクラス編成する「複式学級」は、約42%の人が「複式学級でもよいと思わない」とする一方、「複式学級でもよいと思う」人が約30%、「わからない」とする人が約23%という結果になりました。

(4)次に、小規模校については、約79%の人が小規模(学年1クラス)な学校でよいと思う一方、「そう思わない」人が約11%、「わからない」とする人が約9%という結果になりま

した。

- (5)次に、**クラス替えができる学級規模(いわゆる標準規模校)**については、約39%の人が**クラス替えできる学校規模はなくていいと思う一方、標準規模はあった方がよいと思う人が約29%、「わからない」とする人が約30%の結果となりました。**
- (6)次に、**市内の学校施設の多くは老朽化が進んでいる現状**ですが、約38%の人が**老朽化が進んでいると思う一方、「そう思わない」人が約29%、「わからない」とする人が約33%という結果になりました。**
- (7)次に、現在の人口規模や財政状況等から、現在ある**学校施設をそのまま更新すること**は困難ですが、約42%の人が「**そう思う**」とする一方、「**そう思わない**」人が約14%、「**わからない**」とする人が約42%という結果になりました。
- (8)**将来的に廃校となる可能性**については、約52%の人が「**そう思う**」とする一方、「**そう思わない**」人が約20%、「**わからない**」とする人が約29%という結果になりました。

②質問項目2について、クロス集計を行い、回答別傾向をまとめています。<資料 P37>

- ・質問2の集計では、**学校の規模適正化**について、「**理解できる・おおむね理解できる**」とする人が全体65人中40人(約62%)で、「**どちらともいえない**」と回答した人を除くと53人中40人(約75%)、また**浮島小学校の規模適正化**については、「**必要・どちらかというとも必要**」とする人が全体65人中27人(約42%)で、「**どちらともいえない**」と回答した人を除くと48人中27人(約56%)という結果になりました。
- ・この結果をクロス集計したところ、**関心の高いと思われる計画の「内容を見た」とする人34人のうち、学校規模適正化**については、「**どちらともいえない**」7人を除く27人中19人(約70%)が「**理解できる・おおむね理解できる**」と回答し、そのうち**浮島小学校の規模適正化**については、「**どちらともいえない**」4人を除く15人中13人(約87%)の人が「**必要・どちらかというとも必要**」と考えています。
- ・また、説明会で計画の内容を知った「**策定したことは知っている・策定したことを知らなかった**」とする人31名のうち、**学校規模適正化**については、「**どちらともいえない**」5人を除く26人中21人(約80%)が「**理解できる・おおむね理解できる**」と回答し、そのうち**浮島小学校の規模適正化**については、「**どちらともいえない**」6人を除く20人中11人(約55%)の人が「**必要・どちらかというとも必要**」と考えています。
- ・一方、全体65人のうち**学校の規模適正化、浮島小学校の規模適正化ともに「どちらともいえない」と回答した人は7人(約11%)**いました。

(7)開催結果に関する総括

今回の説明会では、基本計画に示す新居浜市教育委員会の学校再編を進めようとする考え方、浮島小学校の統廃合を進めようとする方針をご説明し、説明会の質疑応答やアンケートの回答を通じて、参加された地域の皆さんの貴重なご意見やお考えを伺うことができました。

その中で、今後計画を進めていく上で必要となる論点が明らかとなる一方で、市全体、地域全体の児童数や学校配置という枠組みの中で学校再編を進めようとする市教育委員会の立場と、コミュニ

ティにも深く関わる校区内唯一の小学校と向き合う校区住民の方の立場の間に大きな隔たりもあり、地域住民の皆さんの学校やコミュニティに対する強い思いも受け止める中で、取り組みの難しさを認識しているところです。

しかしながら、教育委員会としましては、説明会でも繰り返し申し上げてきたように、まずはこれから子どもたちにとってより良い教育環境の実現というものを、校区の皆さんとの共通の理解、共通の目的として、計画の推進についてより多くの皆さんにご理解、ご協力いただけるよう努めてまいりたいと考えています。

そのために、まずアンケートで学校の規模適正化や校区の規模適正化について、「どちらともいえない」と答えられた方が一定数いらっしゃったことから、説明会を継続して開催することで校区住民の皆さんにご理解いただけるよう努め、その説明会につきましても、参加者数延べ 78 人、約3,500 人の校区人口比で、約2.2%という結果であったことから、改めて、開催時期、曜日、時間、場所、周知方法等についても検討し、一人でも多くの皆さんに関心を持ってご参加いただけるよう努めてまいります。

## 2 説明会を通じた主要な論点

今回の説明会を通じていただいたご意見等から、主な論点として以下の3点について整理しています。いずれも今後、計画を推進し、合意形成を図っていく上で必要となる論点であり、今後の説明会の中でも取り上げることとしています。

### 【論点】

- (1) 計画において浮島小学校の児童数は令和17年度以降増加に転じていることを含めた「校区の児童数の将来見直し」について
- (2) 全校区の中で突出している浮島校区の「校区外通学の見直し」について
- (3) 小規模校の存続でなく、「標準規模校を目指す考えと評価」について

### 論点(1)校区の児童数の将来見直し

計画において使用している児童生徒数の将来推計は、平成27年国勢調査や社会保障・人口問題研究所が公表した平成30年推計結果(平成27国調ベース)から算出されたデータを校別に加工・調整した数値です。

浮島小学校の児童数は令和17年度以降増加に転じている計画の推計は、下表<図表1>の浮島校区に含まれる7町丁の0-4歳の人口推移を見ると、市全体では段階的に減少している結果に対して、平成22年度まで増加しており、こうした傾向が推計に影響したものと考えています。

しかしながら、下表の令和2年の0-4歳の数はさらに大きく減少し、令和5年12月に公表された令和5年社人研推計(令和2年国調基準)でも市全体の年少人口が過去の推計を下回る結果となっていることから、改めて校別児童生徒数の推計を更新する際には、増えるという見直しは非常に厳しいと考えています。

また、住民基本台帳に基づく見込みでも、既に生まれている0歳児が小学校に上がる6年後の令和11年には、高津校区、浮島校区、垣生校区を合わせた地域の児童数は、現在より約22.5%減少し、計画で示している望ましい学校規模(6学年・2クラス・30人)に照らすと、学校の数は一標準規模校2校に相当するという結果となっています。※次ページ<図表2>参照

現在、国を挙げて出産・子育てに対する少子化対策が推進されていますが、個人の価値観の多様化、ライフスタイルの多様化による非婚化、晩婚化が進んでおり、合計特殊出生率が人口置換水準以上へと大幅に改善しない限り、今後も本市の少子化の傾向は長く続くものと考えられています。

<図表1>浮島校区に含まれる7町丁の5歳階級別人口推移

< 松の木町・宇高4丁目・宇高5丁目・八幡1丁目・八幡2丁目・八幡3丁目・垣生6丁目 >				
国勢調査	合計 / 0～4歳	合計 / 5～9歳	合計 / 10～14歳	合計 / 15～19歳
H7	178	267	327	357
H12	174	190	277	275
H17	194	185	194	235
H22	291	262	210	175
H27	271	313	287	178
R2	164	269	307	243
<b>総計</b>	<b>1,272</b>	<b>1,486</b>	<b>1,602</b>	<b>1,463</b>

<図表2> 川東西部地域の3校区の児童数の推移(6年後)

## 圏域の児童数の見込み (住基)

校 区	R5 (R5.3.31住基) 6～11歳	6年後 R11 (R5.3.31住基) 0～5歳	差引 (R11-R5)	備 考
浮島校区	1 6 5 人	1 2 9 人	▲ 3 6 人	21.8%減
高津校区	5 4 2 人	4 2 4 人	▲ 1 1 8 人	21.8%減 ※標準規模校へ R11/35人学級で12クラス
垣生校区	2 1 7 人	1 6 3 人	▲ 5 4 人	24.9%減
合 計	9 2 4 人	7 1 6 人	▲ 2 0 8 人	22.5%減

※実際に校区に在住する住民の数。R5・R11ともに、**校区外通学を見込まず**。

### 論点(2)校区外通学の見直し

市の手続きは基準に沿って申請に基づき許可しているところですが、同じ手続きを行う中で、他校区と比べて浮島校区における申請が<図表3>のとおり突出しています。なお、通学区域を見直すことについては、地域コミュニティ等の面から調整が困難であると考えています。

<図表3> 令和5年度校区外通学状況

R5校区外通学の状況 (特別支援学校を含む) ※校区外通学率10%超を抽出						
学校名	校区外 (入) ①	校区外 (出) ②	差引 ③ (①-②)	在校児童数 ④	校区在住児童数 ⑤ (④-③)	校区外通学率
浮島小学校	14	80	▲ 66	97	163	49.1%
多喜浜小学校	0	23	▲ 23	118	141	16.3%
宮西小学校	25	23	2	185	183	12.6%
中萩小学校	6	109	▲ 103	799	902	12.1%
金子小学校	24	64	▲ 40	554	594	10.8%
合 計	490	490	0	5,691	5,691	8.6%

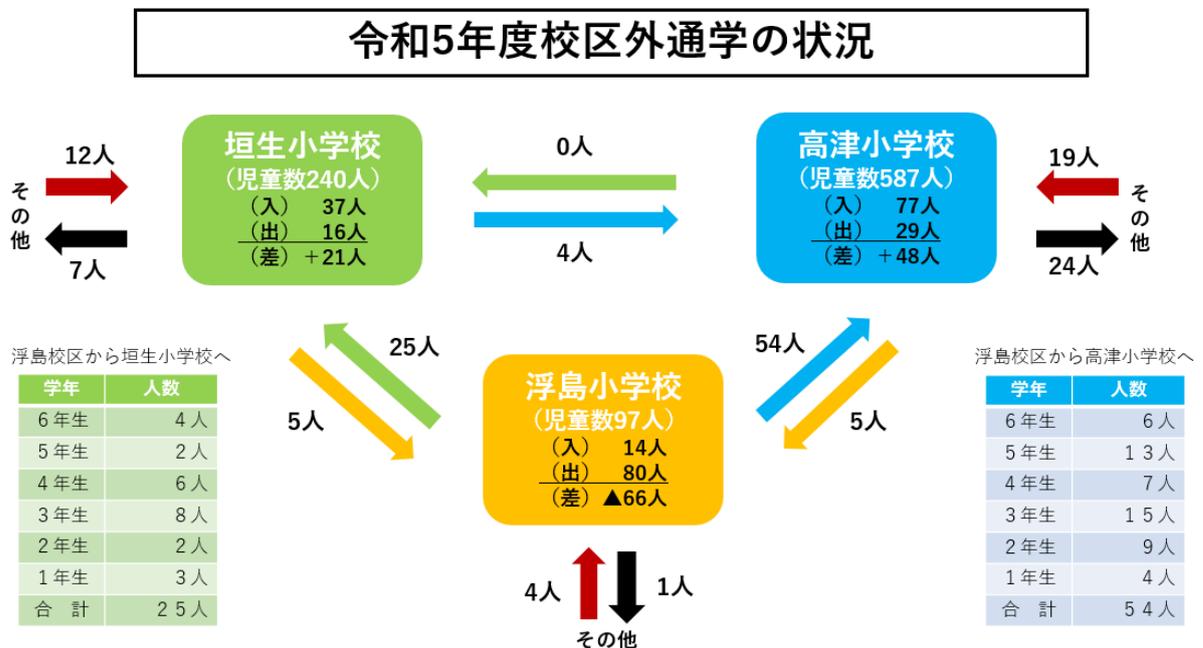
<図表4> 校区外通学の理由

## 新居浜市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則

理由	
1 転居・転入等の理由	・住宅の新築等により他の校区に転居することが確定しているため、あらかじめ転居先の校区の学校に就学を希望する場合、他
2 保護者の就労その他家庭の理由	・保護者の就労、病気療養等により放課後の保護監督が困難なため、他の校区の親族等に児童を預ける場合で、当該預け先の校区の小学校に就学を希望するとき、他
3 地理・地域的な理由	・住所地から指定小学校までの通学距離が直線距離で1.5キロメートルを超え、かつ、隣接する小学校までの通学距離の方が近い場合で、当該隣接する小学校に就学を希望するとき、他
4 教育上の配慮による理由	・兄弟姉妹が他の理由により指定学校の変更の許可を受け、他の校区の学校に在籍しているため、兄弟姉妹と同じ学校に就学を希望する場合 ・いじめ、不登校等学校生活の状況から指定学校への就学が困難であり、教育的配慮の必要があると認められる場合、他
5 その他特別な事情	その他特別な事情がある場合で、教育的見地から指定学校以外の学校に就学することが妥当である又はやむを得ないと認められる場合

別表第3（第5条関係）

<図表5> 川東西部地域(高津小・垣生小・浮島小)の校区外通学状況、及び学年別状況



※浮島小学校・高津小学校・垣生小学校の3校の間の校区外通学の状況として、浮島校区から高津小学校に54人、垣生小学校に25人、その他の校区に1人、計80人が通っています。逆に高津校区から5人、垣生校区から5人、それ以外の校区から4人、計14人が浮島小学校に通っています。

<図表6> 浮島校区の児童数(住基)と校区外通学者数、およびその理由

## <浮島校区> 住所地別校区外通学状況 (住所地別)



※校区外通学率は、宇高5丁目、垣生6丁目、松の木町、宇高4丁目が50%を超えています。

### 論点 (3) 標準規模校を目指す考えと評価

将来の予測困難な時代を力強く生き抜く子どもたちを育てるため、これからの学校教育は、これまでの一斉学習に加えて、ICTを積極的に活用し、全ての子ども達の可能性を引き出す、個別学習(個別最適な学び)と、協働学習(協働的な学び)を実現することが重要とされています。

その中で、より学習の効果を高めるためには、学校という学びの場は、全校の児童生徒の数や学年全体の児童生徒の数が一定程度確保された学校規模が適当であると考えています。

現在、検討基準に該当する小規模校のままでは、今後さらに少子化が進むことでデメリットが顕在化するリスクも高くなることから、標準規模校を目指すことで、持続的で魅力ある学校教育、子どもたちにとってより良い教育環境の実現につなげる考えです。

#### ア 小規模校と標準規模校の比較

##### ① 集団教育の効果

子どもたちの成長にとって、集団の中で多くの人間関係を築き、多様な考えに触れる機会や、学びあい、互いに切磋琢磨し高めあうことができる環境が重要であり、標準規模校は学校教育が目指す集団教育のメリットを今後も維持できる。

##### ② 学習形態と学校規模 ※<図表7>参照

これまでの主要な一斉学習では、子どもたちの学習度合いに目が届きやすいという小規模校のメリットはあるが、標準規模校においても一クラスの児童生徒数(学級規模)は少人数化してお

り、指導する先生にとって大きな差はなく、個別学習においても ICT を活用することで、ひとり一人に応じた学習が可能となる。一方で、協働学習の面では、小規模校は集団が固定化されやすく、同級生が少ないことによる学習に対する意欲や競争心が薄れることが懸念され、標準規模校の方が、集団教育同様の学習効果が得られやすいと考えます。

<図表7> 予測困難な時代を生き抜くための学校教育（令和の日本型学校教育）

学習形態	概要	標準規模校	小規模校
一斉学習 ※与えられた課題を正確に解く、受け身型。	一斉（いっせい）学習は最も一般的な学習の形態で、教師が、児童・生徒に対し、一斉に授業を行うもの。	1クラスの児童数が少人数化しており、目の届きやすさに大きな差はない。	児童一人ひとりの学習度合いを把握し、対応することができる。
個別学習 （個別最適な学び）	学習者が自分の目標や進度に合った形で学んだり、自分の興味関心のあるものを選んで学んだりする	ICTを活用することで、一人ひとりの学習度合いに応じた学びが可能となる。	目が届きやすく、一人ひとりの学習度合いを把握し、対応することができる。
協働学習 （協働的な学び）	探究的な学習や体験活動などを通じ、子ども同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、必要な資質・能力を育成する。	様々な小集団学習（グループ学習）を組み込み、学習効果を上げられる。多様な意見・価値観により触れられる。	もともと小集団学習であるが、集団が固定化している。多様な意見・価値観に触れる機会が少ない。

### 3 今後の進め方

#### (1)開催結果報告書の取り扱い

説明会の開催結果報告は、今後市ホームページに掲載し、印刷した物を学校施設課と公民館で必要な方に配布する予定です。その上で、地域における合意形成を図るため、開催結果報告書の内容について、ご要望があれば団体ごとに説明会を開催する考えです。

#### (2)合意形成に向けた今後の進め方

ア 合意する内容 浮島小学校の統廃合について

イ 合意形成の手順

合意形成とは、立場の異なる個人や団体、利害関係者などが合意に達するプロセスですが、その中で行政として丁寧な説明を心掛け、疑問や不安の解消に努め、調整可能な意見や要望を十分に検討することで、一人でも多くの地域住民の方のご理解が得られるよう努めます。

①まず校区内の団体・住民の要望に基づき説明会を開催します。

②次に地域の住民(世帯)に対するアンケートを実施します。

- ③さらにアンケートとは別に、浮島小学校 PTA、保育園保護者会、浮島自治会、松の木自治会の団体としての意見・要望等を取りまとめていただき、教育長に提出をお願いします。  
ただし、各団体の中でも立場、利害関係等によって意見が異なることから、とりまとめが困難となることも考えられるため、必ずしも意見を一本化することは求めません。(両論併記可)
- ④以上の意見・要望を踏まえて行政において総合的に判断します。
- ⑤統廃合を進めるとした場合には、今後の手続き、影響緩和等について地域の意見・要望を伺いながら円滑に進めるための協議会を立ち上げ、協議を進めていきます。

#### ウ スケジュール(案)

- ①説明会(要望) 令和6年4月～
- ②地域アンケート調査 令和6年8月(結果集計9月)
- ③団体意見のとりまとめ
- ④市方針の決定
- ⑤統廃合を進めるとした場合 協議会の設置

#### エ 地域アンケート調査の概要(案)

①調査目的	浮島小学校の統廃合に関する意向調査
②調査対象	浮島校区1, 675世帯(R5) から全部または抽出(無記名または記名)
③調査方法	郵送(調査用紙を返信封筒で回収) ※アンケートと資料を同封
④調査期間	令和6年7～8月
⑤調査項目	<p>主な項目(案)</p> <p>≪現状認識と意向を把握する項目≫</p> <p>Q1 浮島小学校の統廃合についてお尋ねします。</p> <p>&gt; 統廃合に関する情報の認知 (①知っている、②聞いたことがある、③知らない)</p> <p>&gt; 関心の有・無 (①大変関心がある、②多少関心がある、③あまり関心がない、④関心がない)</p> <p>&gt; 統廃合について(※結果をもって統廃合を決定するものではありません)</p> <p>(①賛成、②やや賛成、③やや反対、④反対、⑤どちらでもよい、⑥わからない)</p> <p>≪今後の協議の材料とする項目≫</p> <p>Q2 統廃合することになった場合についてお尋ねします。</p> <p>&gt; 浮島小学校の統廃合の時期</p> <p>(①そうと決まればなるべく早く、②できるだけ時間をかけて、③特になし、④(①・②に回答した方)具体的な希望があればお答えください。( )年後)</p> <p>&gt; 学校の跡地利用(自由記述)</p> <p>&gt; 浮島小学校に通う児童への対応(心配されることについて)(自由記述)</p> <p>&gt; 地域コミュニティ活動への影響と行政に求める支援、対策(自由記述)</p> <p>&gt; その他(自由記述)</p>
⑥調査結果	広く広報します。

<説明会の様子>



学校運営協議会(R5.8.28 浮島公民館)



保護者等説明会(R5.12.4 浮島小学校)



浮島自治会説明会(R5.12.18 自治会館)



松の木自治会説明会(R5.12.20 自治会館)



校区住民説明会(R6.1.24 浮島公民館)

おわりに

浮島校区での説明会開催にご理解、ご協力いただきました地域の皆さん、また非常に寒い時期となりましたが説明会に足を運んでいただきました参加者の皆さんに対しまして厚くお礼申し上げますとともに、引き続き子ども達のより良い教育環境の実現に向けましてご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

新居浜市教育委員会事務局学校施設課

—内容に関するお問い合わせ—

T E L 0897-66-7033 (直通)

E-mail [shisetsu@city.niihama.lg.jp](mailto:shisetsu@city.niihama.lg.jp)